

大阪城西の丸庭園の特設ステージで約30人の大物アーティスト  
トらが共演した ー30日夜、大阪市中心区 (大塚聡彦撮影)



## 大阪城 5000人スイング

### 国内初「ジャズデイ」

世界的なジャズミュージシャンらが集う「インターナショナル・ジャズデイ2014」のコンサートが30日、大阪市中心区の大阪城西の丸庭園で開催され、約5千人の観客が体をスイングさせながら聞き入った。

国連教育科学文化機関(ユネスコ)などが音楽を通じた文化交流を掲げて2012年から主催しており、日本での開催は3回目となる今年が初めて。

ジャズピアニストのハービー・ハンコックさんや秋吉敏子さん、サクソ奏者のウェイン・ショーターさんらがライトアップされた大阪城を背景に「イマジン」などを演奏。約30人の大物アーティストらによる約2時間半の共演は全世界にインターネット中継された。

コンサートは、平成32年に来阪外国人旅行者650万人の目標達成を目指す大阪観光局が誘致した。

ー25面に「ジャズの絆」

# 東北の被災地&台風被害のニューオーリンズ

大阪を舞台に30日に開催された「インターナショナル・ジャズデイ2014」に関連し、東日本大震災と2005年に米南部を襲ったハリケーンの被災地がジャズを通じて交流を深めている様子が同日、大阪市西区で開かれたパネル

ディスカッションで紹介された。支援活動の関係者6人が、互いの窮地に楽器を贈り合い、絆を強めてきた経緯を報告。「音楽は、言葉が違っても思いやりを伝えられる」と訴えた。

(1面参照)

## ジャズが結んだ絆

### 「楽器贈り合い」紹介



イベントには、平成6年にジャズ愛好家クラブ「日本ルイ・アームストロング協会」(千葉県)を立ち上げ、ジャズ発祥の地とされる米南部のルイジアナ州ニューオーリンズの子供たちに楽器を贈ってきたジャズ演奏家の外山喜雄さん(70)、恵子さん(72)夫妻らが参加。同州出身の演奏家とともに「ジャズは国や民族が違っても苦しみを癒やす力がある」と思いをかみしめた。

「音楽を通じて苦しんでいる人を助けたい」という外山さん夫妻の思いは確かに伝わった。平成23(2011)年3月の東日本大震災発生直後、ニューオーリンズから喜雄さんのもとに「日本を助けたいがどうすればいいか」という電話やメールが殺到。高校生がチャリティーコンサートを開くなどして義援金を集め、14個の楽器を買う費用が送られてきた。

活動が始まった20年前、ニューオーリンズでは治安の悪化が問題となっていた。同協会は「銃ではなく楽器を手に人生を楽しんでほしい」と、20年間で約800個の楽器を現地の学校などに贈った。特に2005年のハリケーンの被害後は賛同者が次々と現れ、楽器のほかに寄付金が約1300万円集まったという。

この資金で買った楽器は、津波被害に遭った宮城県気仙沼市の小中学生バンドのもとへ。バンドは同年4月、届いた楽器で避難所前でコンサートを開き、大きな反響を呼んだ。

ジャズを通じて草の根で芽生えた日米の絆について話す外山喜雄さん(中央)ら

30日午後、大阪市西区

「長年の活動で、日本とニューオーリンズとの間に強い絆ができています」。恵子さんは「音楽が生んだ日米両国間の深い愛を知ってほしい」と話した。